

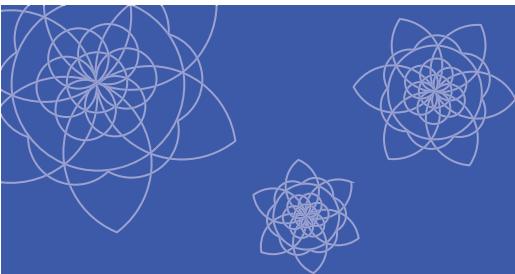
Living the Lotus

11
2021

VOL. 194

Buddhism in Everyday Life

開祖隨感



立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家佛教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑑会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus
2021年11月号 (Vol. 194)

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124
Fax: 03-5341-1224
E-mail: living.the.lotus.rk-international
@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 赤川恵一
編集チーフ: 長田健祐
校閲者: 小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ



ご恩報じ

八十八歳の誕生日を全国の会員のみなさんに祝っていただいて、私がなによりもうれしかったのは、みなさんが現在の幸せを報告してくださいる、その喜びの笑顔でした。人さまの喜びのお手伝いができる幸せを、あらためてかみしめさせていただきました。

私の生まれ故郷は、一年の半年近く三メートルもの豪雪に埋もれてしまうのですが、その雪の下で、村の人たちは助け合って暮らしていました。私の家は十二人の大家族でしたが、ついぞ、いがみ合うといったことはありませんでした。小学校に入ると、校長先生が神仏を拝む大切さを教えてくださいました。そして、ご法を通して出会うことができた数えきれない方々のご恩によって、こんにち今日の私があります。

「自分の受けた恩を一つ一つ数え上げたら、お返しができたことのあまりの少なさを思わずにはいられない」とおっしゃる方がおられます。

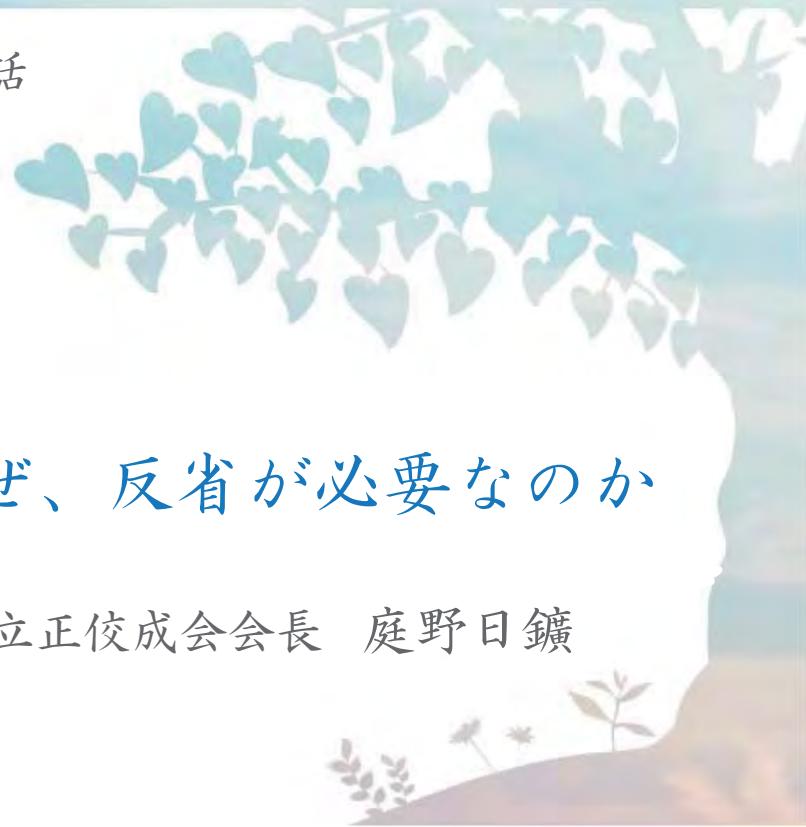
山のようなご恩をいただいて生かされてきたこの命を、一日も長く生きて、ご恩報じをしなくてはと思う一日一日です。

(『開祖隨感』10, P. 98-99)

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



会長法話



なぜ、反省が必要なのか

立正佼成会会长 庭野日鑛

高みをめざすから反省がある

東洋思想研究の権威として知られる安岡正篤師によると、私たち人間は「少しでも高く、尊く、大いなる存在に向おうとする本能」をもつていて、それはたらきによって神仏を仰ぎ、敬う心が生まれるといいます。同時に、人としての高みをめざすがゆえに、自分に至らないところがあると気づいたときには、それを省みて恥じる心が生じると述べています。つまり、反省や懺悔が人間の心を育て、ひいては人類の進歩や向上を支えてきたということです。

ところが、一般的に反省や懺悔は、不名誉なものと思われがちです。とくに懺悔は、「自分のおかした罪悪に気づき、それを神仏や他人に正直に話して悔い改めることを誓う」と辞書にあるので、その言葉の印象からか、否定的で暗いイメージをもたれています。そのため、失敗をして反省したり、人前で懺悔したりするのは「恥ずかしくいやだ、情けない」と思う人がいるのでしょうか。

しかし、理想とする存在や人間的向上をめざせばこそ、反省や懺悔の心が起きるとすれば、反省や懺悔は向上を求める前向きな意思のあらわれです。情けなくて、みじめなことなどではなくて、むしろ失敗や挫折に恥じ入りながら向上していくのが、人間の当たり前の姿なのだと思います。

私たちになじみ深い法華三部經では、その結びで、法華經の教えを実践していく上で必要なこととして、懺悔をテーマとする仏説觀普賢菩薩行法經(以下、觀普賢經)が説かれます。どれほど精進しても私たちは雑念に惑わされますし、

至らないことのすべてに気がつくわけではありませんから、いつでも反省、懺悔する心が大切で、それが精進と一体になるとき、成長が促されるということです。

繰り返しになりますが、反省も懺悔も、私たちが理想を求めて生きていることから生じるものです。それはいわば、仮性のはたらきによる向上の証であり、菩薩の証明です。だとすれば、反省や懺悔ができることが自体が、尊く、有り難いことにはかならないといえるのではないでしょうか。

何度も繰り返しながら

先の東京オリンピックでは、「自分に足りない部分を見定めて、さらに上をめざします」といった敗者のコメントにも胸打たれましたが、このこと一つをとっても、人生において反省が向上と一つのものであることがわかります。

ただ、反省したり懺悔したりしたことが守れずに、失敗と後悔を繰り返すことがあるのも人生です。そのなかで、「懺悔したからには、絶対に同じ過ちをおかしてはならない」と窮屈に考えると息苦しくなります。反省を生かそうと努め、あるいは信仰における懺悔を実行しようと励むことは大切ですが、そのことにとらわれすぎると、思うようにできない自分や人を責めることにもなりかねません。

観普賢經には、「煩惱をすっかり断ち切っていなくても、けっして煩惱に溺れないこと。菩薩の行ないはそれが大切です」とあります。開祖さまは、「自分が弱くて間違いややすい人間であることを思い知ったら、新たな決定をし直せばいいのです。今年だめだったら、来年は必ず決心すればいい」と、至らない私たちに助け舟をだしています。

いいところも悪いところも含めて、神仏の前に自分のありのままをさらけだすと、心が洗われます。そしてまた、再始動すればいいのです。その反省や懺悔が精進の歩みを支える杖となって、少しずつ人間的に成長していくのです。

また、人はなすべき仕事に没頭しているときがもっとも神に近いという言葉にふれたことがあります。観普賢經に、「若し懺悔せんと欲せば 端座して実相を思え」とあるとおり、反省、懺悔をしたら、あとは自己中心の見方を離れて、日々を一所懸命に暮らすことが大切なのです。

(『校成』2021年11月号)

Spiritual Journey

私の「悟り」物語—教えの実践から得られた幸せ

オクラホマ教会
クリス・ピーターズ

この体験説法は、2021年7月4日、オクラホマ教会で行なわれた
教会発足二十周年記念式典で発表されたものです。

本日は皆さまの前で信仰体験をお話しください。お手配を賜り、誠にありがとうございます。このような機会をいただけましたのも、皆さまが私のためにお時間をお分けください。私の説法に耳を傾けてくださるからこそと、心より感謝申し上げます。

私の両親は私が一歳のとき離婚しました。以来、私は実の父親とは一度も会ったことがありません。五歳になるまで私は呼吸器系の病気を繰り返し、病院で過ごす時間がほとんどでしたので、同年代の子どもたちと遊ぶ機会はなく、いつも大人のなかで過ごしていました。

保育所に行かなかったせいで肺炎になる回数は減りましたが、常に大人と一緒にいることに慣れきっていたため、小学校に入学する時は大変でした。シングルマザーの母は普段は仕事で家におらず、勤めから帰ると寝ていることが多かったので、休日は話し相手もなく、一日中一人きりで過ごしました。地域や学校の行事にも参加できず、また父親がいないことで、とても寂しい思いをしたことを覚えています。幼いころの記憶にあるのは、深い孤独感と疎外感です。

私の母方のおじは、私が生まれたばかりの頃から十四歳になるまで我が家に入り浸っていました。おじは大酒飲みで、コカインや違法薬物の常習者でした。すぐにイラついては周囲の人々に暴言を吐き、時折暴力をふるうこともありました。

私が九歳の時、母は私の養父となるジョンと再婚しました。養父との生活はとても楽しく、そばにいるだけでとても安心でした。「自分には父親がいる」という夢もかな

いました。ところが母との結婚からわずか九か月後、養父は仕事中の事故で亡くなってしまったのです。その時母は妊娠していました。その時お腹にいた子は今も仲の良い弟です。しかし、弟が生まれた直後の数年間は、わが家にとって本当に厳しく困難な時期でした。突然夫を亡くした心労から、母はさまざまな病気を抱えるようになり、うつ病も発症しました。こうして私は、再び父を失っただけでなく、しばらくは母と会うことすらできなくなってしまったのです。

今とは違う人生が欲しい——それが幼い私の一番の望みでした。死が人生の一部であることは子どもながらに理解していましたが、養父を喪ったことは本当につらく悲しい出来事でした。「自分を取り巻く世界は残



オクラホマ教会発足二十周年式典で体験説法をする
クリス・ピーターズさん

酷で冷淡で悪意に満ちている」としか思えず、しばしば自分は周囲から脅されているという感覚にとらわれては、無力感に陥りました。人生はギフトではなく神から与えられた罰なのだと感じ、この世に生まれたことを、感謝ではなく怒りで受け止めていたのです。

私が十七歳の時、母は三度目の結婚をしました。継父は退役軍人でPTSD(心的外傷後ストレス障害)とアルコール依存症を抱えていました。継父は暴力的で常に銃を身に着けていました。さらに銃で脅して周囲の人を動かし支配しようとしていたため、日常生活は常に緊張を強いられていました。

こうして、私は十八歳になるまで何人かの大人から精神的・身体的な虐待を受けて育ちました。人種差別や偏見や憎悪などの感情を押し付けるだけで、安全で信頼できる家庭を子どもに与えようとしている大人们を私は憎んでいました。すでに人生のこの時点で、私は悪意に満ちた大人の問題に対処させられてきた忌まわしい記憶を抱えていました。しかし、そんなストレスを抱えながらも前に進めたのは、ある心の習慣のおかげでした。それは、今まで生きてきた人生とは違う未来を思い描くこと、つまり大人としてより良い人生を送ろうと強く願い続けることでした。

高校を卒業し、地元を離れて自分の判断で人生を築いていく機会を得たことで、私はようやく解放された気持ちになりました。しかし、十八歳の青年らしい自立への意思表示はできたものの、不健全な家庭で育ったせいかどこまで他人を信用してよいのか分からず、楽しくも苦しい時期でした。

ともあれ大学ではすばらしい経験ができました。授業は難しく感じる時もありましたが、大学生活は身のまわりの環境を整える機会となり、それまでにない心の安定と

癒しを得ることができました。私は教育学、社会福祉、科学に興味を持ちましたが、自分に向いていると思った分野は、どれも自立する力を身に付けながら人の役に立てる人間になりたいという思いと一致するものでした。自分が苦しみを経験したのは、他の人が直面している問題の解決に役立つ仕事をするためだったのかもしれません。専攻を決める時期になった時、私が選択したのは、OEH(OCCUPATIONAL AND ENVIRONMENTAL HEALTH AND SAFETY：職業・環境の健康と安全)という課程でした。

OEHを専攻することで家庭、職場、地域の安全向上を図る仕事に就けるため、自分に適した分野のように思いました。大学卒業後の最初の仕事は、養父が亡くなった事故と同タイプの事案を調査することでした。しかし死因調査に関わることは、私にとって健康的な仕事とは言えず、今思えばハ正道の「正命」にはあたりませんでした。実際にそれが原因で、一時的に私は大量のお酒を飲むことで苦しみから逃れようとした。また、飲酒は他人と一緒にいることへの不安とも関連していました。「家族からさえ危害を与えられてきたのに、この世の中に本当にやさしくて安心できる他人などいるはずがない」と、私は重い気持ちを抱えていました。私の生き立ちは、そんな状況に健全に対処できるようなものではありませんでした。もちろん、飲酒が正しい対処法ではなく、逆効果にもなることはよく分かっていました。健康への影響を考えずにお酒に逃げ、苦しい気持ちをわかってもらおうと、人に対して気難しい態度をとっていたことを今は申し訳なく思っています。

その後、私は公立学校の教員の職を得て、五年間勤務しました。その頃、同僚が道教の本をプレゼントしてくれて、それが東洋思想に興味を持つきっかけになりました。表紙の裏には「人生を変えなければ、考え方を変

Spiritual Journey

えなさい」と手書きのメッセージが書かれていました。それは「自分が変われば相手が変わる」という開祖さまの教えを思い起こさせる言葉です。

それから数年間、私は道教や仏教の本を読んで過ごしました。しかし、知識を得るだけで実践しようとは思いませんでした。過去のトラウマに邪魔されず、自分が思うように社会生活を送れるようになるまで、実家を離れてから十五年の歳月が過ぎていきました。そして2013年、三十五歳の誕生日を迎えた週に、オクラホマ教会を訪ねてみることにしました。私にとって子どもの頃の宗教体験はネガティブなものでしたので、いわゆる「教会」に近づくことには抵抗があり、オ克拉ホマ教会の存在を知ってから数年後のことでした。

オ克拉ホマ教会を訪れてから、私はすぐに仏教が好きになりました。根本仏教のクラスや瞑想、サンダー・サービスは楽しい時間でした。オ克拉ホマ教会には私を暖かく受け入れ、お互いに思いやりの心で触れ合うサンガの存在がありました。オ克拉ホマ教会で私は善友に出会うことができたのです。そして学びを深めていくなかで、開祖さまが最も願っていたことのひとつに「宗教間の対話と協力による世界平和の実現」があったことを知りました。私が育った環境は、家庭も教会も自分以外の宗教や人々に対して非常に閉鎖的でしたので、地域にも世界にも開かれた立正佼成会の教えを知ったことは、とてもうれしい発見でした。安心できる心の居場所を見つけられて私は幸せでした。

これまでお話ししたように、オ克拉ホマ教会は私が育った環境と比べるとあらゆる点で違いがありますが、その例をひとつお話ししたいと思います。

数人のグループで教会の敷地にあるウッドフェンスを修理していた時のことです。私は仲間のメンバーが所

有するチェーンソーを使って作業をしていました。電動工具を使った経験は豊富で、コードレス式のものには慣れていたのですが、電源コードの付いたものはあまり使ったことがなかったため、私は誤ってコードを切断してしまい慌てました。不注意だった自分が情けなく、それまでの癖でまわりから悪口を言わされることを覚悟し、そんな自分を許すことができませんでした。しかし、チェーンソーの持ち主である仲間の反応は違いました。彼は私を気遣い、コードを損傷しただけで私に怪我がなくて良かったと喜んでくれたのです。それは道具よりも私が無事だったことの方が大事なのだという意思表示でした。失敗をした自分を許せなかった私に、彼は慈悲のお手本を見せてくれたのです。この出来事は、私にとってとても大切な救われの体験になりました。

私にとって立正佼成会の教会はまさに「道場」です。そこではさまざまな気づきが生まれ、日々の生活の中で法輪が轉ぜられ(真理がはたらき)、サンガの仲間が自他の癒しを見つけ、創り出す場所であることを、私は体験を通して学ぶことができました。

そして習字を通して、無常や無我の教えをどう救いに結びつけるか、日々の出来事をすぐに損得で判断しようとする習慣をどうしたら変えられるか、また四諦の法門に照らすことでどうしたらさまざまな問題や悩みを解決できるかを学びました。また、十如是と十二因縁は観察、内省、心身の浄化に役立つことも知りました。慈悲心は他の人に対してだけでなく自分自身にも向けられた時はじめて完成することも学びました。それは地元や遠方のサンガの皆さんのが実践を通して教えてくださったものです。いまこの瞬間を輝かせるためには、私自身が「今、ここ」を本当に大切にしなければならないこと、そしてどんな苦難があると、仏教は実践すれば必ず救いを得ら

Spiritual Journey

れる教えることを、三宝帰依と八正道・六波羅蜜の実践を通して知りました。以上がご法に沿って生きることで得られた私の「信解」です。

この数年間の学びと実践のおかげさまで、子どもの頃のつらい出来事があったからこそ、今この瞬間に感謝できる自分にならせていただけたことが分かりました。私自身が変わるためにには、心が向かう先を外の世界から自分の内面に振り向けることが必要だったのです。執着する心を捨てることで、人生の変化を受け入れ、新たな習慣を取り入れる余裕ができたのだと思います。

「すべては関わり合って存在している」ということは、時につらく悲しい出来事を引き起こす一方で、癒しや救いにも繋がることを体験しました。有害な人間関係に引きずられる心を捨てることで、私には健康な生活を支えてくれる人たちを受け入れる余裕が生まれました。手放すことは失うことではなく、新たな機会に繋がる一歩なのです。私が癒しを得られたのは、自分自身の努力もありましたが、同時に多くの人たちに支えていただいたおかげさまで。

私にとっての「悟り」とは、憎しみを抱えて過ごした子ども時代の出来事に、今では深く感謝できるようになったことです。耐え難い環境であったからこそ、平穏な生活がより有り難いものに思えるのです。困難な出来事のおかげで三法印や法華経に出会い、こうして自他の仏性を開拓する道を歩んでいるのだと思うと、心に力が湧いてきます。

私にとって一番大切なものの——自分自身の存在、友人、家族、人生の楽しみ——それらはすべてとても何かないものです。人生で最も大切なものが、無常の真理によって手の届かない所に行ってしまう前に、私はすべてのものに感謝したいと思います。この世の誰もが喪

失を経験します。だからこそ私は、感謝の実践を通して人生に眼を向けてまいります。人生の困難を乗り越えることで、魂の学びと、生きる意味を得ることができるのです。

法華経の如来寿量品にはとても有り難い一節があります。

衆生劫盡きて
大火に燒かるると見る時も
我が此の土は安穩にして
天人常に充滿せり
園林諸の堂閣
種種の寶をもって莊嚴し
寶樹花果多くて
衆生の遊樂する所なり

この一節を拝読し、煩惱の炎の中にはすばらしい輝きが秘められていること、そしてご本仏と諸仏諸菩薩が、私たちに常に救いの手を差し伸べられていることを知り、心の震える思いがしました。

開祖さま、脇祖さま、会長先生、そして私をお導きくださった人生と信仰のすべての恩師の皆さんに感謝申し上げます。



オクラホマ教会の駐車場でサンガの仲間と会話を楽しむピーターズさん

まんが 立正佼成会入門

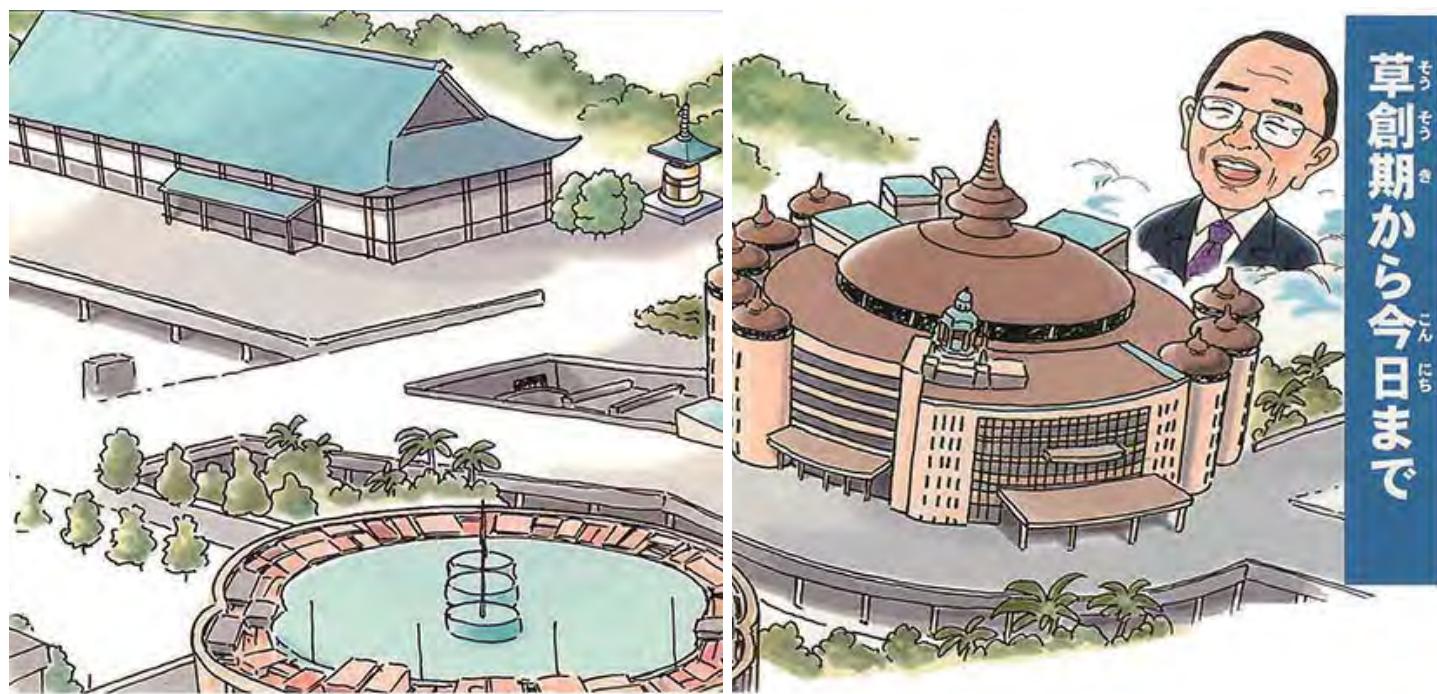
草創期から今日まで

立正佼成会が現在のような大きな教団となるまでには、開祖さまをはじめ会員たちのたいへんな苦労がありました。

宗教教団への取り締まりが厳しかった第二次世界大戦中には、開祖さまと長沼妙佼ながぬまみょうこう（わきそ）（脇祖さま）の教えが人の心をまどわすという理由で、警察に連れていかれたこともありました。しかし、教えと指導方法の正しさについて誠意をもって説明した結果、開祖さまと脇祖さまへの疑いは晴れ、釈放されました。留置場での開祖さまは、不自由な生活の中でも「これも一つの修行」という気持で毎日を過ごしました。

また、開祖さまは修行のために十年ものあいだ、家族と別れて暮らしました。1957年には、脇祖さまが亡くなるという悲しいできごともありました。こうした苦難を乗り越えて立正佼成会は発展し、いまでは多くの人から認められる教団となりました。

1938年に創立された立正佼成会の、今までの歩みを学んでいきましょう。



※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。

法華経との出遇い



ほけきょうであ
開祖さまが法華経と出遇ったのは、結婚して、漬物屋を開いていた27歳の時でした。

ある日、子どもが高熱を出しました。その時、「困ったことがあつたら新井助信さんをたずねなさい」と教えてもらったことを思い出し、新井先生をたずねたことがきっかけでした。

先生の助言どおりに仏壇の前で法華経をあげると、祈りが通じたかのように子どもの熱が下がりました。このことをきっかけにして、開祖さまは法華経を学んでいくことになります。

豆知識

開祖さまは1930年、阿部サイ(のちに直子と改名)と結婚した。結婚当初は間借りの家に住み、漬物屋の従業員として働いていた。その後独立し、東京・中野本郷通りに「楽久屋」を開店した。

Director's Column

反省懺悔は明るく

国際伝道部長

赤川惠一

いよいよ会長先生からご講授いただいて参りました法華三部経の解説シリーズも最終ステージに入りました。今月と来月は、懺悔経をご説示いただきます。

今月号のタイトル「なぜ、反省が必要なのか」を目にして、すぐに今年の年頭法話が私の脳裏に浮かんできました。「反省創造しよう」というタイトルのもと、会長先生は「コロナ禍は人間が真に大切にすべきものは何かを見つめ直す機縁」とし、省き、省みることを促されました。

このご法話のお陰さまで、折にふれて内省を試みる機会も増えてきたように私は感じておりますが、皆さんはいかがでしょうか？

一般的に懺悔には否定的で暗いイメージがありますが、佼成会では、第一に「自分の誤りを自覚すること」、第二に「その誤りを改めることを心に誓うこと」、第三に「正しい道へ向かう努力をすること」と教えていただきます。さて、私たちには信仰者としての懺悔ができているでしょうか。

反省懺悔を明るく繰り返しながら、心をスッキリと整えて、今月も「まず人さま」と菩薩行に取り組んで参りましょう。合掌



Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

在家佛教韓國立正佼成會 Korean Rissho Kosei-kai
〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部 Korean Rissho Kosei-kai of Busan
〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會 Rissho Kosei-kai of Taipei
台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongjheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會 Rissho Kosei-kai of Tainan
台灣台南市東區崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koscikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu
Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai Society of Kolkata
89 Srirampur Road (VIP), Garia, Kolkata 700084, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North
AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center
Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,
Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center
Please contact Rissho Kosei-kai Society of Kolkata

Rissho Kosei-kai of Central Delhi
77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore
Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh
W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Rissho Kosei-kai International of South Asia
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Bangkok
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation
No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa
Please contact Rissho Kosei Dhamma Foundation

Rissho Kosei-kai Bangladesh
85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL: 880-2-41360470

Rissho Kosei-kai Mayani
Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Damdama
Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria
Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni
Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai Raozan
Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham
Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka North
408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar
Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Please contact Rissho Kosei-kai Bangladesh

Rissho Kosei-kai Patiya

Rissho Kosei-kai Ramu

Rissho Kosei-kai Aburkhil

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruziinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Please contact Rissho Kosei-kai di Rome

Rissho Kosei-kai of Paris

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai of the UK

29 Ashbourne Road, London W5 3ED, UK
TEL: 44-20-8933-3247 Email: info@rkuk.org URL: https://www.rkuk.org
Facebook: https://www.facebook.com/rkuk.official
Twitter: https://twitter.com/rkuk_official
Instagram: https://www.instagram.com/rkuk_official

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: http://www.ibc-rk.org